

第1回 適性検査型入試 解答例

【適性検査Ⅰ】

I

問1 「オオカミ少年」の話から「嘘をついてはいけない」という単純で紋切り型の教訓を導くような読解。

問1 (解答例)

〈人は自分の視界に入ったものしか見ない(信じない)〉

理由…村の人たちは、オオカミが来たのを実際に見ていないため、少年の話信じなかったとも考えられるから。

〈一度仕事を任せたら、最後まで信用しなくてはいけない〉

理由…騙されようがなんだろうが、少年からの通告で出勤していれば、羊は守れたから。

〈信用できない者に仕事をさせるな〉

理由…信用できないのに仕事を任せっぱなしにしていたため、羊は殺されたと言えるから。

〈人は損をすると己の非を認めず、他人に罪をかぶせ、自分は被害者になりたがるものだ〉

理由…羊が殺されたのは村の人たちのリスクマネジメントができていなかったためである。しかし、ミスを認めず、少年に罪をかぶせ、自分たちは被害者のようにふるまっていると言えるから。

問3 ア=○ イ=× ウ=○ エ=× オ=○

II

問1 エ 問2 イ

問3 (解答例)

優柔不断な自分の性格を気にする友人に対して話し、むしろ物事を慎重に考え判断できると教える。

自分の性格を飽きっぽく、諦めが早いと思っている友人に対して話し、むしろ好奇心旺盛で、気持ちの切り替えが早いと教える。

彼女に大雑把でがさつな性格を指摘され傷ついている友人に対して話し、細かいことを気にしないおおらかな性格だと言って慰める。

III

にじいろの魚の「うろこ」をねだる青い魚は、虹色のうろこをもらって本当に幸せなのだろうか。他人の持ち物をうらやんで手に入れたとしても、きっとまたすぐに別の物を欲しがらようになるのではないか。しかも、物をもらうことを条件に友だちになるというのは、本当の友情とは言えないだろう。極端に言えば、現代の「いじめ」の構造にもつながるストーリーだと思う。

にじいろの魚も欲しがらる者に簡単にあげてしまうというのは、物で問題を解決しようとしているように見える。「自分の個性を殺して、周囲に合わせよ」という教訓を読み取ることも可能であり、この教訓には賛同できない。「これは自分の個性なんだ。君たちにも自分にしかない個性があるはずだ」と言えばよかったと思う。たしかに「分け合うことの大切さ」はメッセージとして伝わってくる。しかし、それがゆがんだストーリーを産んでしまったようで残念である。